

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 事業所番号 | 4079600534 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人あたか | | |
| 事業所名 | グループホームあたか | | |
| 所在地 | 福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年7月13日 | 評価結果確定日 | 令和2年8月4日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん |
| 所在地 | 福岡県直方市知古1丁目6番48号 |
| 訪問調査日 | 令和2年7月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあたかは、自然豊かな山里にあります。耳を澄ませば、鳥のさえずりが聴こえてきます。敷地内の畑で採れた野菜たちが、毎日の食卓を彩ります。窓からは、緑いっぱいの美しい山々が見られます。春…淡い色の春紅葉と黄緑色の木々が気持ちをやわらげてくれます。初夏…暖かな日差しと新緑の爽やかな薫りに癒されます。秋…眩いほどの色彩があふれる紅葉は心を鎮めてくれます。冬…凜とした澄み切った空気に身が引き締まります。利用者のみなさまは、毎日、そんな自然あふれる山々の景色の中から、四季を感じ楽しんでおられます。恵まれた環境の中で自然と触れ合い、ゆったりとくつろげる時間を大切にして、心身のリラックスを図っておられます。また、家庭的な雰囲気大切にしながら、少しでも役割を持つことで生きがいや日常生活の活性化に繋げ、笑顔で安心して生活していただける支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ズイキの皮を剥き過ぎる事もあるがそれも良しと、笑顔になる「あたか名物」の旬の食材の下ごしらえは参加するだけで居心地良く、自室よりはここでと定位置の椅子で食後居眠りする入居者の姿から、理念に謳った人生の大先輩として人格を尊重したケアの実践が伺える。毎朝の申し送りは時間を設けて気づきや情報を共有し、其々の役割を組み入れた介護計画は本人に認知力に応じた説明をしている。また、運営推進会議を中止し家族等の来訪を制限している現状から、ホーム便りだけでなく利用料請求書に個々の入居者の近況を報告し、居室の窓ガラス越しの面会を支援している。自治会会合や清掃活動の参加で地域交流が継続し、地域からの入居者も多く職員の紹介を受けるなど、今後も地域や家族の協力を得ながら、全職員が一丸となりさらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあたか**

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「その人らしい日常生活を支援」「共感」「心通い合うサービスの提供」を念頭に置いて日々のケアを行っている。 | 事務所に開所以来の理念を掲示し、毎朝の申し送り等でケアを話し合い、理念の実践に努めている。職員は、入居者からの笑顔を理念の成果と受け止めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入しており、地域の祭りやイベントへの参加もあり、地域住民との交流もある。地元の利用者が多く、ご家族が散歩がてら面会に来られ、お菓子や海産物の差し入れをいただくこともある。 | 自治会会合や清掃活動の参加で地域交流が継続し、地域からの入居者も多く職員の紹介を受けている。高校生が職場体験の一環で米寿のお祝いを持参しているが、馴染みの神幸祭や彼岸花祭の再開を待ち望んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議では、利用者一人ひとりの現状と問題点・対策・支援方法を説明している。認知症による様々な周辺症状を伝えることにより、認知症への理解を深めてもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームでの日常を写真を交え報告している。また、現状、対応に困っている利用者について参加者へ意見を求めることで、違った視点から解決策に繋がることもある。 | 定例化していた運営推進会議は、今年1月まで開催されている。家族の参加はなかったが、民生委員や地域包括支援センター職員が参加し、入居者の状況などを詳細に報告し、参加者から意見を伺っている。 | 2ヶ月毎に配付されているホーム便り等で、改めて運営推進会議設置目的を周知し、家族が参加しやすい日時等の設定をお願いします。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2ヶ月に1度開催している運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回参加している。ありのままの事業所の実情やサービスの取組み内容を伝えることで、協力・相談しやすい関係を築いている。 | 生活保護課担当職員が来訪したり、担当係に事故報告等を提出し、情報交換や連携に努めている。町の介護サービス紹介サイトに居室状況を掲示している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束等適正化のための指針を整備し、身体拘束等適正化検討会議を2ヶ月に1回、職員研修を年2回以上行っている。身体拘束廃止に向けて最大限の努力を行い、サービスの質の向上を目指している。 | 運営推進会議後に身体拘束適正化会議を開催し、外部研修の伝達研修を実施している。帰宅願望時などに甘い食べ物で入居者の気をそらすスイーツロックが話題となっている。立ち上がりなどの入居者の動向は職員間で声を掛け合い、チームケアを実践している。家族の了解を得て、ペット柵にカバーを付け転倒を防止している入居者もある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての共通認識を持ち、事業所内での虐待が見逃されることのないよう努めている。管理者が参加した外部の研修会や協作成のビデオ研修を用いた研修会を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、必要性のある利用者がいないため、積極的に研修を行うなどの学びの機会がなく、全職員が理解できているとは言い難い。 | 日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備しているが、現在は利用者はいない。状況に応じて説明できるように、研修の機会を設ける予定である。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際には、説明が一方的にならないようにしている。利用者や家族が十分に理解・納得をしているか、不安や疑問点はないか気をつけている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者については、日常会話の中から意見や要望がないか気兼ねなく言えるような雰囲気作りをしている。家族へは、面会時や電話の際に具体的なエピソードを添えて利用者の日頃の様子を伝えている。 | エピソードを交えた入居者の近況報告は家族に好評で、家族の来訪などを制限している現状から、ホーム便りだけでなく利用料請求書に個々の入居者の近況を報告している。以前夏場に長袖を着ていると家族から指摘を受けたこともあるが、状況を説明する機会となっている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングを兼ねた朝礼を時間をかけて行い、単なる申し送りにならないようにしている。また、代表者や管理者への垣根は低く、意見や提案がしやすい雰囲気になっている。 | 職員会議は不定期であるが、毎朝の申し送りは時間を設けて気づきや情報を共有している。職員の提案で、陰部清拭用のホットタオルが入った保温器の置き場所を、脱衣場からトイレ入り口に移動している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、介護業務も積極的に行っている。職員と同じ業務を行うことで、個々の努力や実績、勤務状況を把握しやすい。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 労働基準法に添って労働環境を整えている。採用にあたっては人間性を重視し、定年制を見直した。現在70歳代の職員が4名いる。 | 採用は穏やかな声かけや対応ができることを重視し、ハローワークや職員のロコミで入職した30代～70代の男女の職員が、常勤、非常勤、夜勤専従と多様な形態で勤務している。希望休に沿ったシフトを組み、介護職員処遇改善や特定加算を取得している。職員は運営者や管理者が其々の職員を良く理解していると話すなど、生き生きと働ける環境づくりに努めている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人生の大先輩である利用者の方々には、常に尊敬の念で接するように指導している。 | 高齢者虐待に関する研修会を実施し日頃から運営者や管理者は入居者への声かけや対応を指導している。タイムレコーダー上部に不適切な言動を掲示し、気になる言動についてはその都度注意している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は介護業務も行いながら毎日職員と接する時間を設けているため、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 掛け持ちのケアマネを通じて、他の施設の情報を得ている。良い点は積極的に取り入れ、注意点はより一層の注意を払い、サービスの質の向上に役立っている。 | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の事前面談の際には、本人と家族から普段の生活の様子や要望を伺い、スムーズに新しい生活に移行できるようにしている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の事前面談の際には、まずは傾聴することに徹している。その会話の中から家族の不安や要望が出れば、ひとつひとつ丁寧に説明し、施設ではどのような対応を考えているか具体的に伝えることで、不安の解消に努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | まずは、入所に至った経緯である第一の不安が解消され、安心して新生活が送れるようなプランを提案している。訪問マッサージやリハビリなど、他のサービスを利用する利用者もいる。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 炊事・洗濯・掃除などの日々の業務を、その方の残存能力にあった範囲でお手伝いしていただいている。また、手伝いの前後にはお礼やねぎらいの言葉をかけることで、入所者と職員が共に過ごし支え合う関係であることを伝えている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や電話連絡の際には、利用者の日頃の様子を具体的なエピソードを添えて伝えるようにしている。困りごとがあれば、家族に相談することもある。家族の情報や意見から解決することも少なくない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出の際には、自宅や馴染みの場所を經由することで、思い出話に花が咲くこともある。面会の際には、施設での具体的なエピソードを交えた様子を伝えることで、話が弾み楽しい時間を過ごしていただけているようにしている。 | 近隣からの入居者が多く、地域の馴染みの場所も多いが、昨今の事情から来所や外出を控え、今春は人出の少ない所で花見をしている。年賀状や暑中見舞い作りは恒例となり、居室の窓ガラス越しの面会で、関係継続を支援している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の生活の中で、利用者同士の触れ合いが楽しい時間となるように支援し、自室に籠りがちにならないようにしている。また、職員が会話の橋渡しをすることで、受け身な利用者も上手くコミュニケーションが取れるような支援に努めている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院から退去に至った方への見舞いを行うこともある。また、家族と街中で偶然会うことも少なくなく、退去後の様子を伺う機会もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話の中から一人ひとりの思いや希望を引き出すように努めている。意思の疎通の難しい利用者の場合は、日々の生活の中から出てきた言葉や表情から思いや希望を読み取っている。 | 認定調査項目を参考にしたアセスメントシートや年代毎の生活歴を整備している。入居者との何気ない会話の中での言葉で、本人の意向を把握することも多い。左官を生業としていた入居者から、職員出入口などのセメント打ちでは指導を受けている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からの情報や本人からの昔話の中から、これまでの暮らしぶりや馴染みのものの把握に努めている。それらの情報を全職員で共有することで、より良いサービス利用につながるようにしている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の健康状態や過ごし方、本人の発した言葉はそのまま記録し、一人ひとりの現状を全職員がいつでも共有できるようにしている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々変化する利用者の心身の状態は、毎朝礼時に共有し、意見やアイデアを出し合い、その日その日の現状に即したケアを行っている。何より本人がより良く暮らすことを第一とした課題とケアのあり方を反映した介護計画を作成している。 | 本人や家族の意向、毎朝の申し送りや介護記録、職員のヒアリングを参考にモニタリングが実施され、役割を組み入れた現状に即した介護計画を作成している。介護計画作成担当者は、介護計画を家族だけではなく本人に認知力に応じた説明をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や本人の発した言葉をそのまま個別の記録に記入している。気づきや工夫は、ミーティングや申し送りを待たずにその都度職員間で共有することで、実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族のニーズには、可能な限り対応している。既存のサービスに捉われない柔軟な支援を行うことで利用者の笑顔、家族の安心感を得られるように努めている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事や道の駅へ買い物に出かけたりしている。季節ごとに花や草木の見学に行っている。単調な生活にならないように、定期的に心身のリフレッシュを行っている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望を大切にし、入所後も協力医療機関に限らず、かかりつけ医へそのまま受診を続けている利用者もいる。また、必要に応じて市外の医療機関や複数の医療機関への受診も行っている。 | 歯科の訪問診療はあるが、協力医療機関や希望のかかりつけ医受診、眼科や歯科などの専門医療機関受診に管理者が同行し、適切な医療受診を支援している。指示の変更は随時家族に連絡し、全職員に周知している。 | |
| 33 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師は介護職員も兼務しており、夜勤にも入っている。そのため、一日を通して一人ひとりの心身の状態を十分に把握している。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は定期的に見舞いに行き、慣れない入院生活での不安の解消に努めている。また、看護師や家族から情報収集を行い、通院治療が可能な段階になったと判断できたら、担当医師との面談を申し入れ早期の退院を支援している。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化した場合や終末期の対応については説明している。状態に応じてなるべく早い段階で話し合いの機会を設けることで、本人と家族が今後の生活について十分に考える時間が持てるようにしている。 | 重要事項説明書に重度化や看取りに関する方針を明記し、入居時に説明している。以前、家族が入院や服薬を拒否されていた入居者が急変し、救急車を呼ぶなど対応に苦慮した経緯もある。看取りの予定はないが、現在「ここで最期を」と希望する入居者もある。 | ぞの人らしく最期まで生き、より良い最期を迎えて頂くために、終末期の兆候を具体的に明記した意向確認書の検討を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ケースごとのマニュアルを整備し、急変や事故発生時に備えている。また、実際に起きた事故やヒヤリハット事案は、直ちに全職員で共有し、初期対応に遅れはなかったか、適切な対応であったかを振り返り、今後のケアに活かしている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 非常災害防災計画を整備し、年2回の避難訓練を行っている。代表者の自宅が隣接し地元職員も多いため、災害時には昼夜を問わずいち早く駆け付けることができる。 | 年2回、夜間を想定したり水消火器を使用した避難訓練を実施している。広い園庭の建てられた平屋の出入口が4ヶ所が設けられたホームで、井戸で飲料水を確保し、食料品やオムツなどを備蓄している。 | 消防署立ち合いの訓練で専門家の意見を伺う機会を設けられることや、昨今の異常気象から大規模災害を想定し、入居者に関する書面の持ち出しの検討を期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩として敬う気持ちを忘れず、人格を尊重した声かけを心掛けている。稀に、親しさから友達のような話しかけになることもあるため注意を促している。利用者の言動は否定せず肯定的表現で受け止め、尊厳を傷つけないようにしている。 | 現在マスク着用での対応が求められるため、大声で話しかけることもあるが、丁寧に氏名を呼称している。夜間不眠、頻回な尿意や帰宅願望で不穏状態であった体験入居の方は、先日退居されたが、声かけや対応に苦慮した経緯を振り返り、スキルアップにつなげる予定である。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者との会話を楽しむ職員が多い。そのため、本人が思いや希望を表しやすい雰囲気になっている。重度化により自己決定の難しい方に対しては、家族やまだお元気な時に発していた言葉から推察し働きかけてる。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、できるだけ利用者の希望に沿った支援を行っている。高齢のため、睡眠時間がずれてきた利用者に対しては食事時間をずらすなどの対応をしている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月に数回美容の日を設け、ヘアカットを行っている。また、着替えの際には好みの服が選択できるように支援している。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 自家菜園や裏山で採れた旬の食材の下ごしらえは、利用者の楽しみの一つである。食事の準備に携わることで自然と会話も弾み、楽しく美味しい食卓となるように心がけている。 | 旬のズイキの皮を剥き過ぎる事もあるがそれも良しと、山菜の下ごしらえが笑顔を引き出している。多種類の野菜がふんだんに入った食事は、美味しそうな匂いが食欲を誘い、其々のペースで、全量摂取する入居者がほとんどである。テールやお盆を拭く入居者もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとり、食事量・水分摂取量を記録している。健康状態や嚥下機能を考慮した食事を提供している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの口腔状態や本人の力量に応じた口腔ケアを支援し、清潔を保っている。歯茎の衰えから義歯が合わなくなり、痛みや噛み合わせがわるくなることもあるため、定期的な歯科往診で義歯の調整や作り換えをしている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | トイレでの排泄や排泄の自立に向けて、一人ひとりの排泄パターンを把握するため、24時間シートに記入している。座位での排泄を支援するために2人体制で介助したり、腹部マッサージを行うこともある。 | 排泄が自立している入居者もあるが、時間や仕草でタイミングを見計らい、声かけや誘導でトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。トイレでの腹部マッサージで排ガスや排便があり笑顔になる入居者もあり、職員の励みとなっている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維の多い食品の摂取や水分量の確保、適度な運動を心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。排便の状態に合わせて下剤の種類・量や回数を調整している。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 週3回の入浴支援を行っている。曜日の変更は難しいが、要望に合わせて時間帯の変更を行うこともある。入浴するまでは拒否する利用者も多いが、湯船に浸かれればみなさんリラックスした様子で楽しんでいる。 | 安全に配慮して浴室と脱衣所に其々職員を配置し、入浴を楽しんでもらおうと好みのシャンプー、肌荒れの方に木綿タオルなど用意している。入浴は面倒と億劫がる入居者には、「お風呂はどうしますか」など意向を尋ねているが、浴槽に浸かれれば上がりたくない様子も窺える。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その日の体調や心身の状態を考慮し、お昼寝を促すこともある。また、夜間の安眠につながるように、日中、適度な運動やレクリエーション、日向ぼっこなどを取り入れている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服用している薬の目的や副作用、用法や用量については個別の服薬管理表に綴じており、いつでも全職員が確認できるようにしている。また、薬の変更があった場合は、口頭・日誌・目の付きやすい冷蔵庫にその旨を記入している。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの残存能力を考慮した作業や得意とする家事をお願いしている。嗜好品は、希望があれば個別に購入したり、持ち込みをする方もいる。通院の帰りに食事に出かけることもあり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日に散歩や日向ぼっこ、園庭でランチ会を行うなどしている。季節ごとの花見と食事は恒例行事である。 | 天候の良い日の早朝、近隣の散歩を楽しんでいる。ホーム便りには三密を避けた花見や園庭でおやつタイムを楽しむ入居者の写真が掲載されている。入居者から、最近開店した蕎麦屋に行きたいとの希望があるため、テイクアウトを予定している。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、2名の方が現金を所持している。普段は、事務所で預かっているが、希望があれば財布の中身を確認してもらったり、買い物の際に支払いができるように支援している。お金を使う喜びより所持しているという満足感が高いようだ。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、いつでも自由に自室で電話ができるように支援している。家族へ年賀状や暑中見舞い、手紙を出す方もいる。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一般家庭のような居心地の良い雰囲気を心掛けている。また、玄関と洗面所には生け花や季節ごとの制作物を飾ったりして、季節感を採り入れている。 | 門扉傍の畑では季節の野菜が栽培され、周囲の山々は四季折々の移ろいが楽しめる。玄関やホール、広い廊下にはソファや縁台が設置され、寛げる場となっている。厨房や食堂、居間が一体となった共用空間は明るく、「あたか名物」の旬の食材の下ごしらえは参加するだけで居心地良く、自室よりはここでと定位置の椅子で食後居眠りする入居者もある。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関前にベンチ、居間にソファ、玄関ホールにソファ、廊下にもベンチを設置し、利用者がいつでも好きな場所でくつろげる共有空間にしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 和室と洋室があり、一人ひとりの生活スタイルにあった居室を提供している。洋室に畳を敷くこともある。また、使い慣れた家具や雑貨を持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。 | ダンスやテレビを持ち込んだり、ホーム備品のポータブルトイレや歩行器を設置している居室もある。ほとんどの居室は職員と入居者が共に掃除しているが、居室を整理し冬布団を持ち帰る家族もあり、居心地良い居室となっている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレには大きく「便所」、各居室には顔写真付きのプレートを下げることで、自立した生活が送れるように工夫している。 | | |